

過労死等防止対策等労働条件に関する啓発事業
(中学、高等学校等への講師派遣支援事業)

報告書

令和2年3月

株式会社 プロセスユニーク

2.2.3. 学校への講師派遣状況

事業案内を行い、講師派遣依頼書の送付があった学校（中学校、高等学校、大学、専門学校等）に対し、講師を派遣して過労死等労働条件に関する啓発授業を実施した。講演実施回数は以下のとおり。

なお、実施回数には、遺族の講話が収録されたメッセージ動画（DVD）の上映のみで実施された授業（2回）も含まれる。

地域別回数

北海道地区	13
東北地区	7
関東地区	86
中部地区	17
近畿・北陸地区	44
中国・四国地区	6
九州地区	2
合計	175

学校種別回数

大学	83
短期大学	3
専門学校	15
高等学校	70
中学校	4
合計	175

地域別中止回数

北海道地区	1
東北地区	0
関東地区	5
中部地区	1
近畿・北陸地区	1
中国・四国地区	0
九州地区	0
合計	8

学校種別中止回数

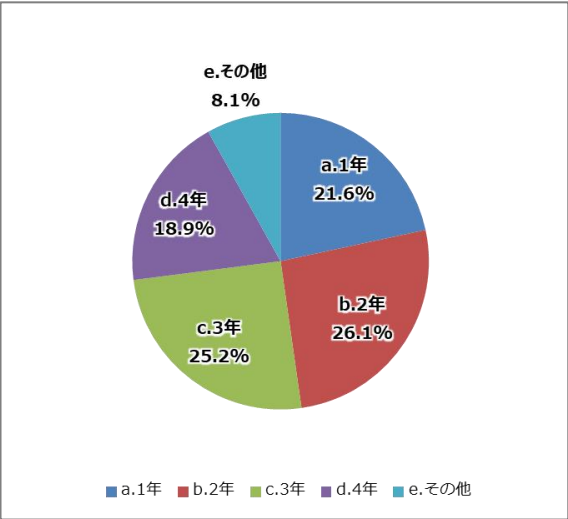
大学	1
短期大学	0
専門学校	2
高等学校	2
中学校	3
合計	8

実施日、実施校、参加人数は、次の（表3）実施校一覧のとおり。
全国各地の中学校、高等学校、専門学校、大学、計175回で19,298名に受講してもらい、過労死防止等、労働条件に関する啓発・周知を行うことができた。

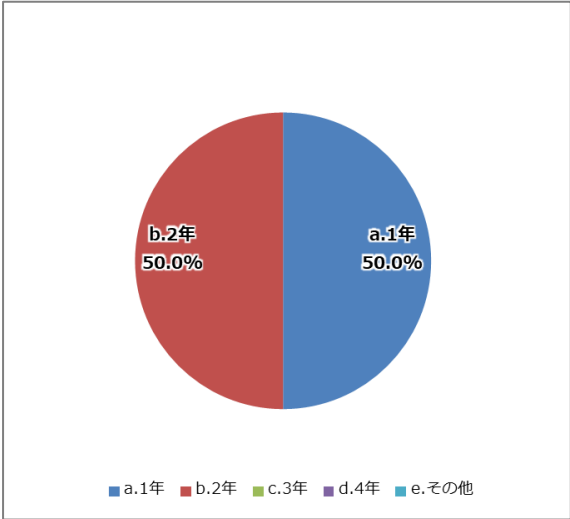
※また、183件の実施予定ではあったが、2月27日の新型コロナウイルス感染症対策本部による全国の小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の臨時休校要請にもとづき、8件の授業が休校のため中止となった。

選択肢	件数
a. 20人以下	13
b. 20～30人	13
c. 30～40人	16
d. 40～50人	8
e. 50人以上	55

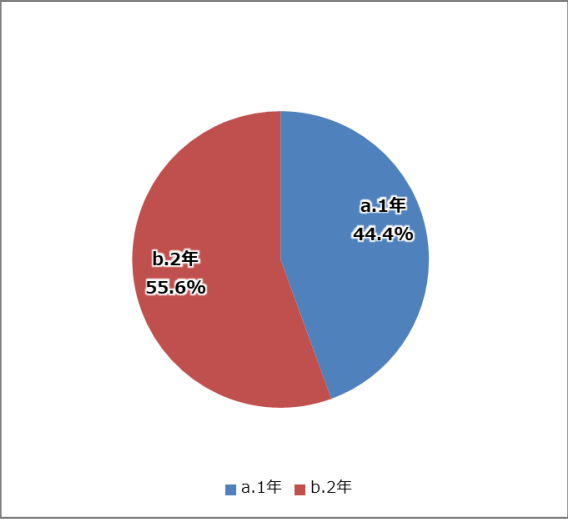
(大学参加学年)



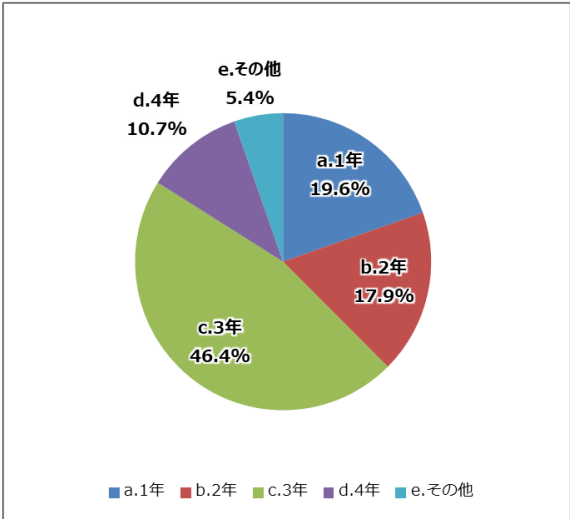
(短期大学参加学年)



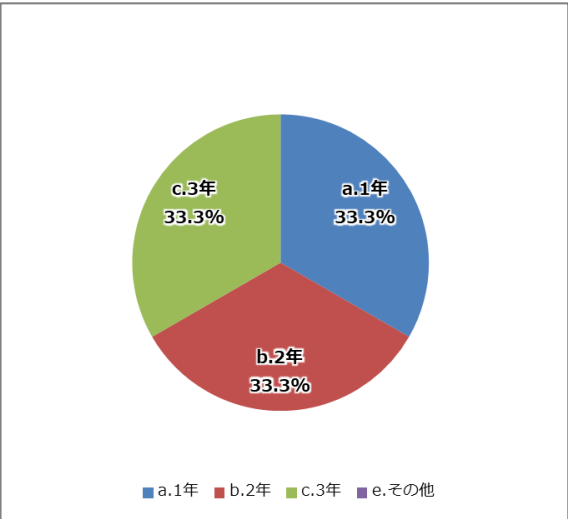
(専門学校参加学年)



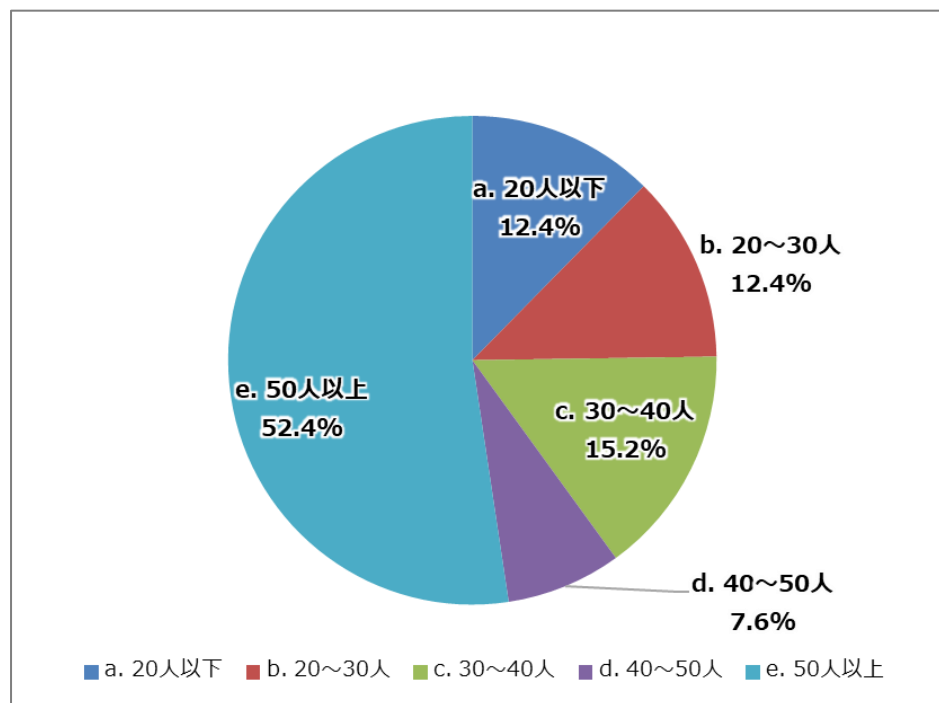
(高等学校参加学年)



(中学校参加学年)



(参加人数)

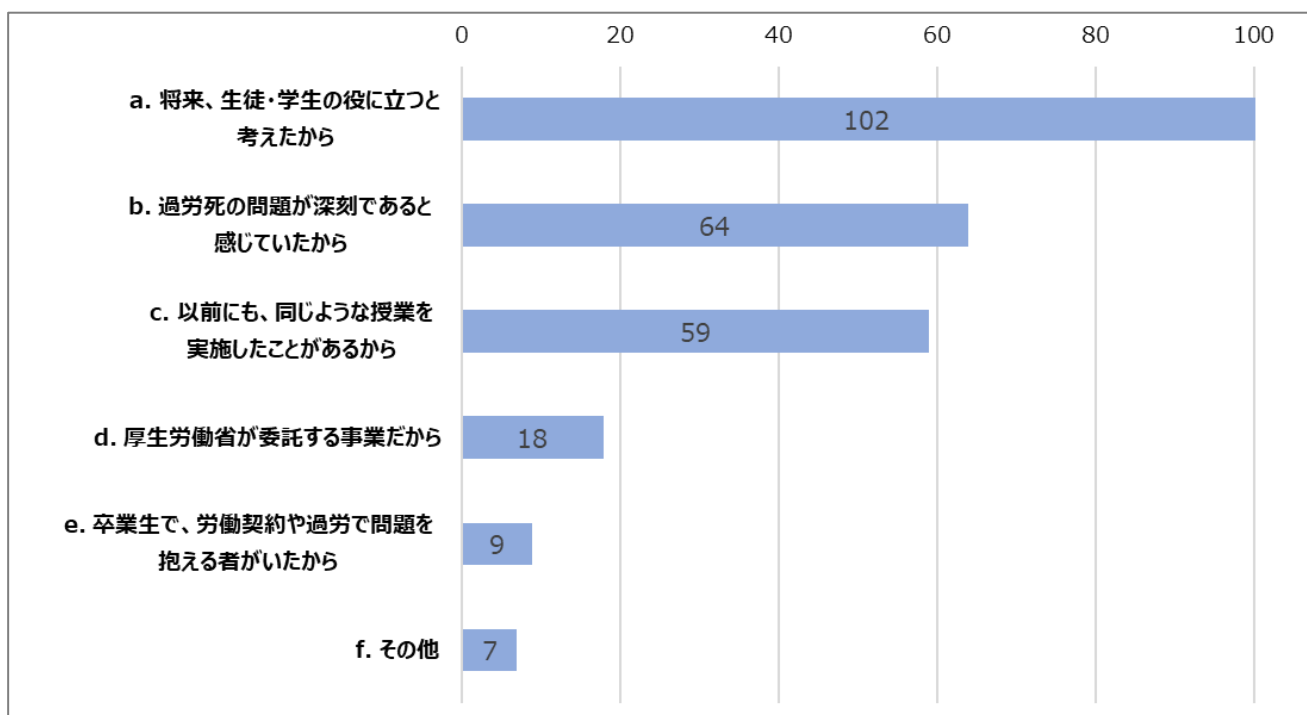


2. 今回、啓発授業の申込みをされた理由は何ですか。(複数回答可)

- a. 将来、生徒・学生の役に立つと考えたから
- b. 過労死の問題が深刻であると感じていたから
- c. 以前にも、同じような授業を実施したことがあるから
- d. 厚生労働省が委託する事業だから
- e. 卒業生で、労働契約や過労で問題を抱える者がいたから
- f. その他 ()

選択肢	件数
a. 将来、生徒・学生の役に立つと考えたから	102
b. 過労死の問題が深刻であると感じていたから	64
c. 以前にも、同じような授業を実施したことがあるから	59
d. 厚生労働省が委託する事業だから	18
e. 卒業生で、労働契約や過労で問題を抱える者がいたから	9
f. その他	7

(※複数回実施校から提出された、回答が同一のアンケートは1件としてカウント)



その他の理由として、

- ・ 3年生1学期の人権学習のテーマとして「働く」「就職」で教材を作ったので。
- ・ 10月に職場体験学習を予定しており、その事前学習として。
- ・ 今年度過労死をテーマにゼミを運営しているため。
- ・ 労働者の人権について学ぶために。
- ・ 卒業生の方からの依頼。

a. 関心を持っていた b. 真剣に聞き入っていた

c. 重要な事柄だと感じていた d. 話の内容に驚いている様子だった

e. 理解が難しいようだった f. あまり興味が持てないようだった

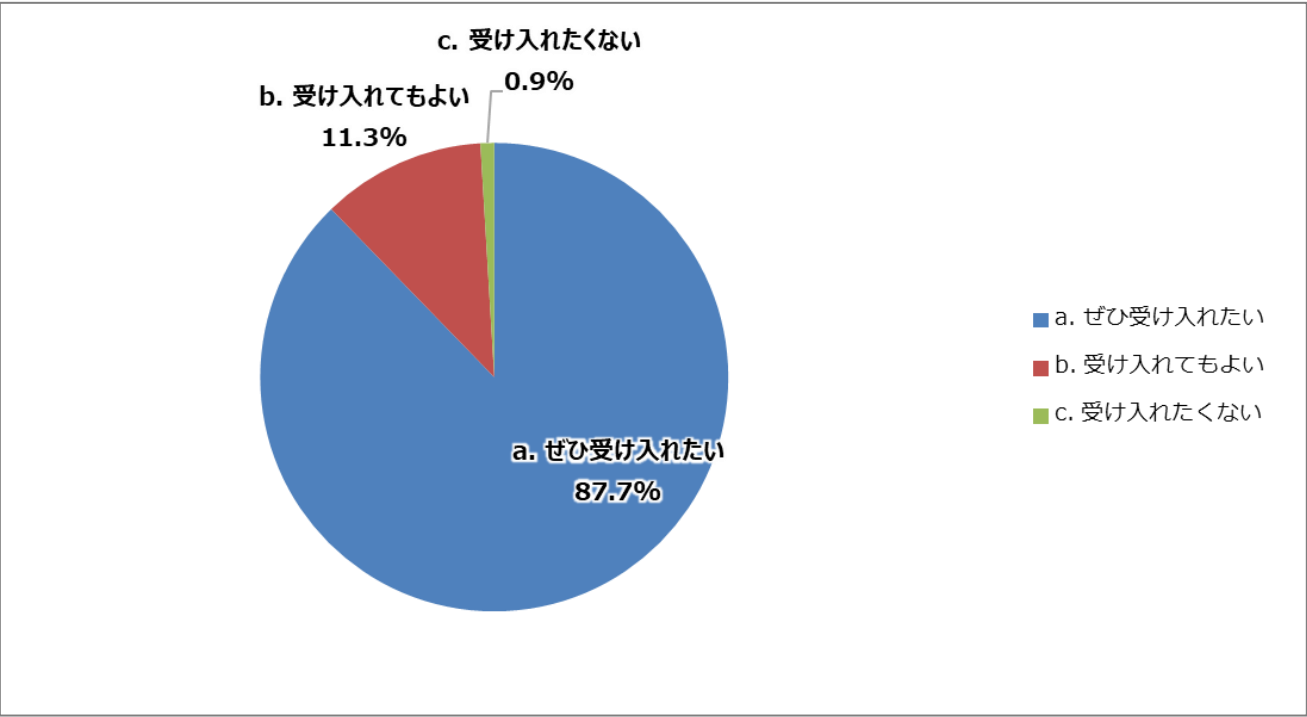
g. その他（ ）

Category	Percentage
a. 関心を持っていた	30.5%
b. 真剣に聞き入っていた	30.9%
c. 重要な事柄だと感じていた	27.4%
d. 話の内容に驚いている様子だった	8.4%
e. 理解が難しいようだった	1.1%
f. あまり興味が持てないようだった	1.1%
g. その他	0.7%

- 個人差があったようである。
- それぞれの学生が自分をふり返ることができていた。

4. 今後も機会があれば、過労死、労働条件に関する啓発授業を受け入れたいですか。
- a. ぜひ受け入れたい b. 受け入れてもよい c. 受け入れたくない

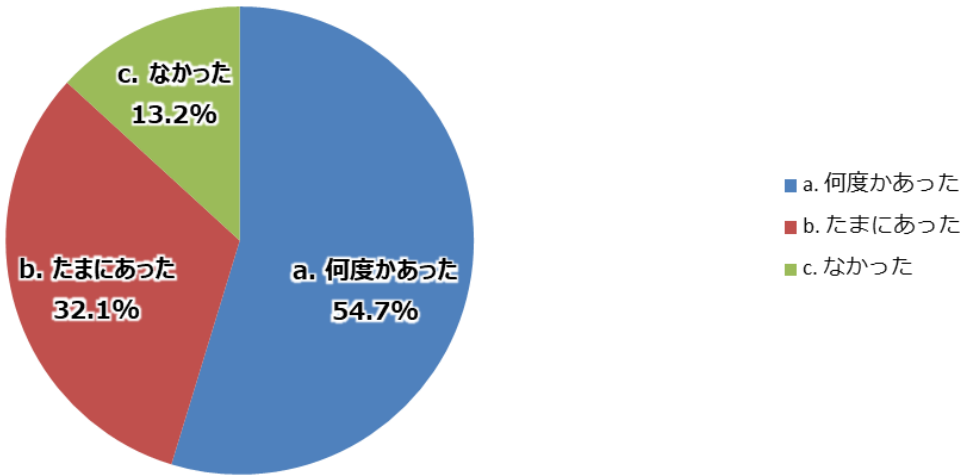
選択肢	件数
a. ぜひ受け入れたい	93
b. 受け入れてもよい	12
c. 受け入れたくない	1



5. 授業を受ける以前から、過労死、労働条件についてお話する機会がありましたか？

- a. 何度かあった b. たまにあった c. なかった

選択肢	件数
a. 何度かあった	58
b. たまにあった	34
c. なかった	14



a. 特になかった b. 通常授業との時間のやりくり c. 授業の受け入れ時期の調整
d. テーマが難しい e. テーマが重い
f. その他（ ）

理由	回数
a. 特になかった	65
b. 通常授業との時間のやりくり	14
c. 授業の受け入れ時期の調整	15
d. テーマが難しい	2
e. テーマが重い	2
f. その他	8

- ・働くことがマイナスイメージの出発にならないか心配。もっと早い時期に実施の案内がいただけたらありがたい。
- ・H R計画との兼ね合い。
- ・総合的な学習の時間に入ってもらったので、好都合でした。
- ・学年全員が入るのは体育館しかなく、机がなかったので資料が多く少し混乱した。
- ・年度途中の企画の難しさ。
- ・他の学年との場所の調整。

7. その他、ご意見・ご要望等がございましたら、ご記入ください。

その一部を紹介する。

(感想)

- 早い時期から対応していただいたお陰で、3年生の1学期に実施することができました。ありがとうございました。
- 大変貴重な機会を提供していただき、感謝しております。例年、受託先の決定、開催予告（事業の）が5月頃のため、授業のスケジュール調整（講師をお招きするのに、学内でも手続きがあります）が難しい面があります。3月末、もしくは4月上旬から申込ができるようにしていただけると大変ありがたいです。
- 貴重な講義を有難うございました。過労死を身近に感じる事ができ、学生の将来に役立つことと思います。来年もよろしくお願い致します。
- 2週連続で開催できると、学習効果がより深まるように思います。
- 実際に働きながら学んでいる学生が多くを占めるため、実感を持って聞いていた。法律を中心に学んでいるので、過労死をとりまく法律問題に関心を持ってくれた。
- 生徒はよく聞くことができた。自分のすぐ将来の問題だと意識・自覚することができたと思う。
- 学生が自分たちの問題として受け止めるのはなかなか難しいですね。自ら就業環境に疑問をもつ人が少ないせいなのかもしれません。家族や友人とのストーリーとしてもっと伝えていただけるとさらに関心が高まるのかと、学生たちの感想を読み感じました。
- 参加学生が少ない中、分かりやすくお話いただき、聴講した学生にとっては、有益な講義となった。今回、就職活動を開始する学生が対象だったので、近い年齢の事例であったご遺族の方の話の方が、より具体的だったかもしれません。また、ルールや注意点もあってよかったかと思いました。学生にとって社会をすることができ、感謝申し上げます。
- 学生からの反応も高く、意義のある取り組みだと感じております。来年も機会があれば、実施したいと思います。
- 本では読んでいても、実際に遺族の方の体験を聞くと胸に迫るものがありました。「働くのがこわい」という印象をどうしても学生は持ちがちですが、遺族の方が「働くのは素敵なことでもある」ということもおっしゃって下さりより説得力のある内容でした。

- 働き方改革関連法が施行され、時間外労働の上限規制がされているなか、過労死や、ハラスメントが後を絶たない現状を考慮すると、今回のような企画で、これから社会に巣立つ生徒に伝える機会が持てたことはとても意義があった。今後も続けて頂きたい。
- 昨年度に続き、今年度も大変有意義な授業となりました。ぜひ、来年度以降も継続していただきたく、要望いたします。
- 貴重な時間になりました。進学する生徒が多く、アルバイト経験も無い生徒が多いので「扱うべき内容として難しい」という訳ではないが、「内容が難しい」と感じた生徒が多かったようです。機会があればまたよろしくお願いします。
- まだ働いていない生徒もいるため、難しい内容もあるかと思いましたが、講師の先生の分かりやすい説明により、生徒も自分の生活と関連性を見つけながら聞くことができた様子でした。
- これまで学校ではあまり話していなかった内容だったので、今後のキャリアを考えていく上で基準となる貴重な体験だったと思います。
- ご遺族の方から直接お話をうかがえる機会はなかなかなく生徒には、とても貴重な経験となりました。
- 年度途中で設定するのはどこの学校でも大変です。前年度中に企画できるような方向ですすすめていただきたい。
- 少しでも多くの学校で実施され、より多くの高校生に伝えるべき内容であると感じています。今後も活用させていただくつもりであります。
- 過労死の遺族の方の声と、法制度の講義という組み合わせの講演形式は、学生たちにとって、内容や問題を理解しやすかったのではないかと思います。
- 毎年お願いしたいと思うくらい生徒の反応も良かったです。
- 多くの生徒が就職していくため、労働に関する知識や現状を知ってもらいたいと考え、今回依頼をしました。大変貴重で自身のこととしてとらえることができたと思います。
- 大学ではより深い内容の講義を行っていただきたいが、大学生があまりにも基礎的なワークルールを知らなさすぎるため、基本的なことから話していただいている。できれば、高校までのどこかでワークルールに関する授業を義務化してほしい。

3.2 生徒・学生からの感想

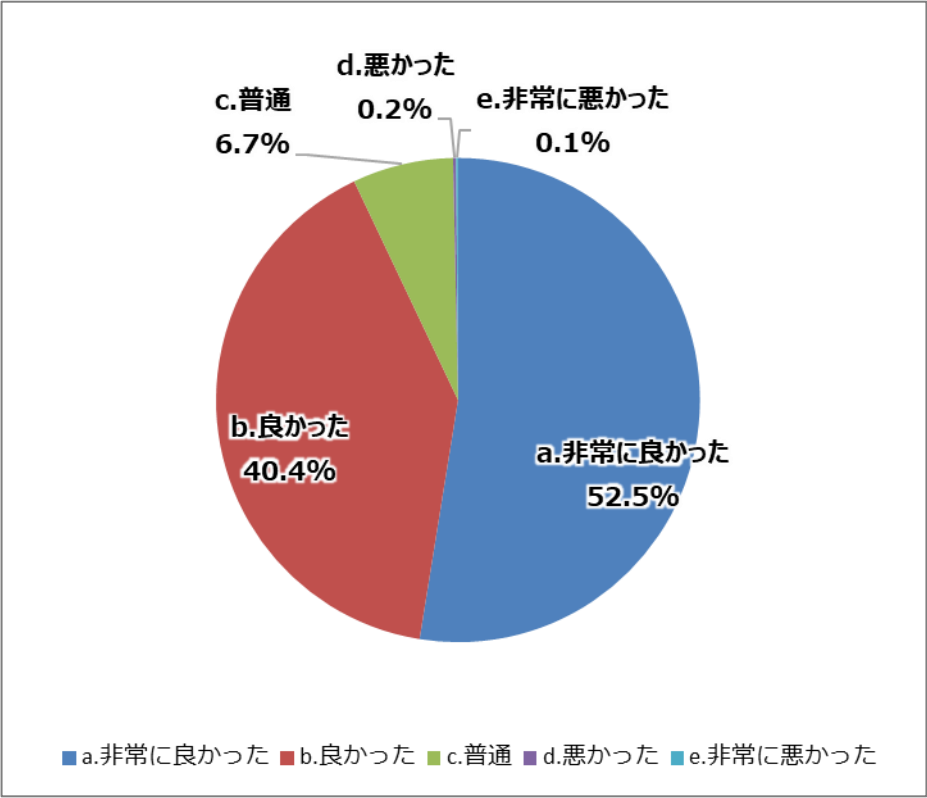
任意で生徒・学生向けアンケートを実施した。問1についてはそれぞれ校種ごとに分類し集計を行った。

問2については自由記述となっており、校種ごとに一部を抜粋して掲載する。

1. 今日の授業（講演）についての印象をお聞かせください。
【 非常に良かった ・ 良かった ・ 普通 ・ 悪かった ・ 非常に悪かった 】

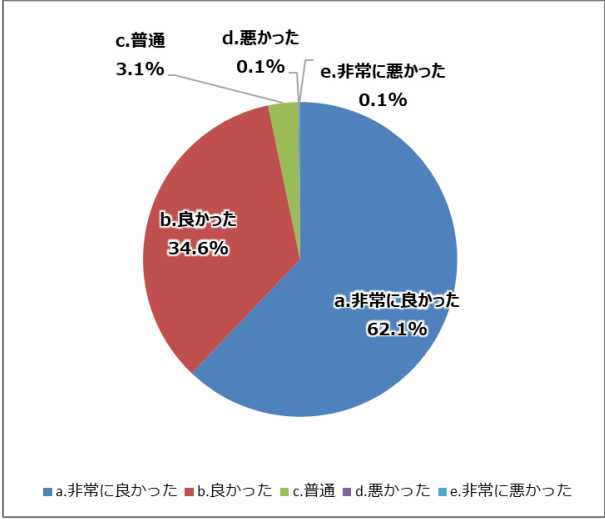
選択肢	大学	短期大学	専門学校	高等学校	中学校	全体
a. 非常に良かった	2,387	89	184	2,460	124	5,244
b. 良かった	1,330	124	125	2,327	125	4,031
c. 普通	118	15	26	505	8	672
d. 悪かった	4	0	3	13	0	20
e. 非常に悪かった	4	0	1	8	0	13

(全体)



(大学)

選択肢	件数
a. 非常に良かった	2,387
b. 良かった	1,330
c. 普通	118
d. 悪かった	4
e. 非常に悪かった	4

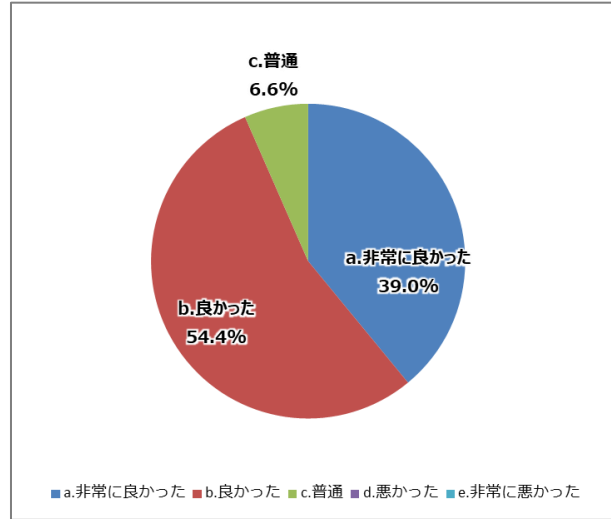


2. 今日の授業の感想を自由にお書きください。

- 働く女性のみならず、男性の観点からも述べられており分かりやすかった。出産・育児による休暇取得について、どれだけ法律が定められても、会社内での圧力、ハラスメントを改善しなければ意味をなさないことが分かりました。
- 欧州のように日本も有給休暇100%を目指して欲しいし、男性の育児休暇取得率も上がって欲しいと思った。男性も女性も安心して育児休暇を取れる世の中になって欲しいと思った。
- ハラスメントの統計などを見て、問題の重大さを知ることができた。8人に1人が過労死ラインにいるのに驚いた。
- 4月に施行された働き方改革関連法では、まだまだ十分に労働者が安心して働けるものではないと思った。自分が就職する時は、その会社について自分でよく調べることが必要だと思う。
- 下の人間から妬み疎まれ、仕事や責任を押し付けられ、不思議と優秀な人ほど生きづらい世の中なのかなぁ…と厭世的な気分になった。
- 仕事などにおける長時間労働やパワハラによるストレスが脳や心臓、精神に負荷がかかり、様々な病気に発展して過労死につながるということを詳しく知れて良かった。また、自身が働く上での考え方や対処法を知ることができて良かった。最近の法改正について詳しく知れたので良かった。
- 様々な法改正が行われているが、自分の身は自分で守らなければいけないということを再認識することができた。
- 過労というと、違法な労働時間・勤務が想像できますが、そこに止まらず、ハラスメントといじめ問題によるストレスが及ぼす影響など、幅広い観点で過労というものを見ていて興味深かった。
- 残業について知識が不十分だったので、今回の授業を聞くことができて良かった。ブラック企業かそうでないかの判断基準は、個々で異なるのは納得がいかない。基準を明確に定めて欲しい。また、取り締まって欲しい。
- テレビなどで最近よく耳にしていた過労死というものは、自分たちにとって遠いものではないのだと改めて感じた。将来、会社などに務めた時、過度な労働を強いられた場合、自分自身ならどうすべきか考えさせられるよい機会にもなった。また、過労死を防ぐにあたって、一刻も早く法制度が整備され、その制度を会社側がしっかりと守るような社会になって欲しいと感じた。
- 生産性を上げるためには、逆に労働時間を減らすべきであるというのに賛成である。短い時間でどのように生産性を上げることができるかを考えるべきだと思った。

(短期大学)

選択肢	件数
a. 非常に良かった	89
b. 良かった	124
c. 普通	15
d. 悪かった	0
e. 非常に悪かった	0

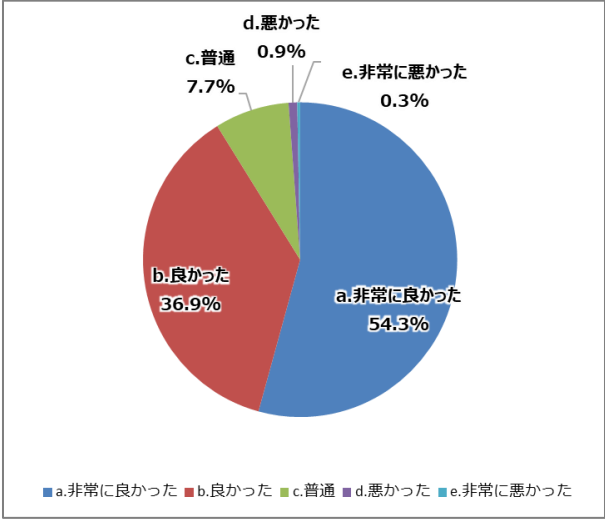


2. 今日の授業の感想を自由にお書きください。

- 働く上で、自分が気を付けていないといけなかったり、知っておかないといけないルールがあり、きちんと理解しておくことが重要なのだと知ることができました。労働条件通知書の見方を知ることができました。
- これから働いていく上で自分の身を守るための知識を得ることができ、有意義な時間だった。
- 仕事＝辛いものというイメージが強い中、仕事は楽しいものと断言してくださっているのが印象的でした。自営業でのアルバイトの場合、ワークルールが緩くて最低賃金も頂けないという人が多いと思うので、こういった話は大事であると思います。
- 過労死について知ることができた。今までは、会社に入らないと、どういう会社でどんな人がいるのかが分からないと思ったけど、調べられることもあるし、もし、自分がしんどいと思ったら、自分のことを優先して相談することが大切だと分かった。
- 労働時間や労働に関する法律など、なんとなくでしか知らなかったのでもって勉強になった。就職活動を始める前にこのお話を聞くことができて良かった。働くことが目的にならないよう、しっかりと考えて就活を行っていきたいと思った。
- 誰にでも起こりうる事なので、もし自分がその立場になったら、友達や家族に相談しようと思います。
- 会社では思いもよらないセクハラやパワハラ、時間外労働などでうつ病に陥ってしまう可能性が誰にでもあるということが分かりました。絶対一人で悩まずに友人や家族に相談しようと思いました。
- 頑張っているのと、無理して働くのは違うというのが明確に分かったので、これからバイトや就職先で自分の働き方についてちゃんと向き合うことが必要だと感じました。
- 少しの時間外労働でも積み重なると、どんどん追いやられてしまうんだなと思った。追い込まれてしまうと、正しい判断ができなくなってしまうと知り、気を付けないといけないなと思った。
- 分かりやすい例えや簡単な言葉で書かれているので、とても聞きやすく集中することができた。「なぜ会社を辞めないのか」と私も思っていたが、なぜ辞められないのかがよく分かった。これから就職してどうしていくか、いざという時の対処法を思い出して冷静な判断ができるようになりたい。

(専門学校)

選択肢	件数
a. 非常に良かった	184
b. 良かった	125
c. 普通	26
d. 悪かった	3
e. 非常に悪かった	1

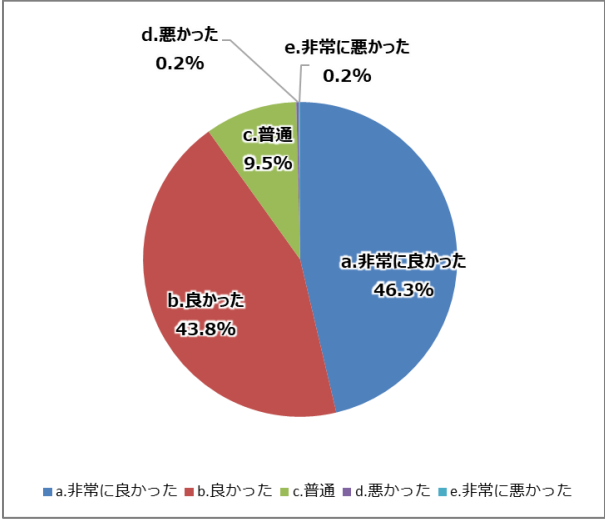


2. 今日の授業の感想を自由にお書きください。

- 例え話や面白く説明してくれたので分かりやすかったです。これからの就職活動に活かしていこうと思いました。
- 雇用契約に対して、知らない事が色々あるんだと思いました。また、過労死については、ほとんど知らなかったもので、知れて良かったと思いました。「過労死ライン」というものを意識して働いていく事が大切だと感じました。
- 働くにあたって睡眠はとても重要だということが分かりました。「過労死」が起きないようにするために、労働基準を反している会社は、今すぐにでも改善するべきだと思いました。
- 過労死・過労自殺などについて深く理解することができた。4月から社会に出て仕事を始めるにあたり大切な事だと思う。しっかり睡眠をとり健康面に気をつけて仕事をしていきたい。
- 学生では就職することが目的になっているので、正社員ならどこでも良いとなっている気がする。働いてからではないと気付かないことが多い。助けてもらう人が大切だと思う。
- 自分がもしブラック企業へ入ってしまった時の参考にしようと思います。死を選んでしまう前に周りに相談しようと思いました。
- 社会人になる前にこのような機会があり良かったと思います。ありがとうございました。
- 過労死が起こる環境や実際の事例などを聞いて、一人一人が誰でも起こることと自覚することが大切であると再確認できました。また、それにより周りの仲間も助けることにつながると感じました。
- 今までには就職するためのセミナーばかりだったが、職場の辞め方についても聞くことができなかった。現在過労死が増加しており、問題になっているため、自分の身を守るためにも知る事ができて良かったです。

(高等学校)

選択肢	件数
a. 非常に良かった	2,460
b. 良かった	2,327
c. 普通	505
d. 悪かった	13
e. 非常に悪かった	8

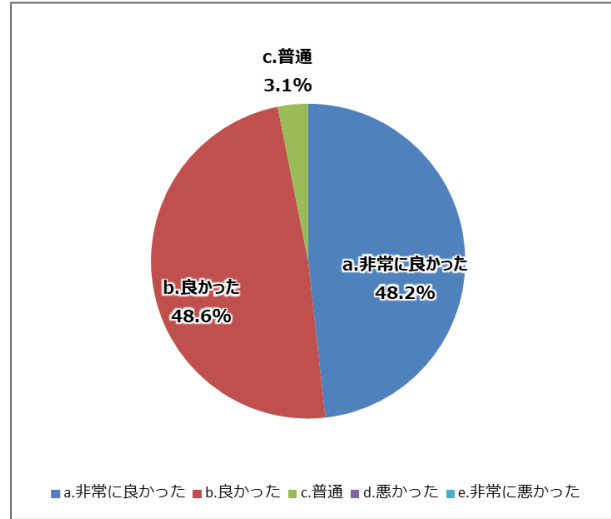


2. 今日の授業の感想を自由にお書きください。

- 労働の問題はなかなか実感が湧かないところがあったが、話を聞いて考えることができた。自分の命を大切にしていきたいと思った。
- 労働に関しての知識が知れて良かったです。「大企業はホワイトで、ブラック企業は中小企業の問題」について、僕もそう思っていたので、認識を改めなければなと思いました。
- 自分の息子が亡くなってしまって本当はとても辛いはずなのに、息子のために過労死の問題と真剣に向き合っているところがとても勇敢だなと思いました。自分も周りを見て少しでも助けられればいいなと思いました。
- 弁護士さんの話で、貰っていない給料は2年間しか有効じゃないと聞き驚きました。また、過労死について話して下さったご遺族の苦しみは、私達が想像している以上だと思うのに、他人のために動き、息子のために全力を尽くしてすごいなと思いました。私もそんな風に誰かのために行動できる大人になって、一人で抱え込み過ぎずに仕事したいです。
- よく母から、職場がブラックという話を聞きます。今は大丈夫だけど、万が一のことを考えたらとても怖くなりました。「会社が辛い」とか言うのは「甘えだ」とか言う人がいるけれど、そういった人達が正しい知識を身に付けて、労働問題に対する考え方が変わってほしいと思いました。
- 非常に難しい問題だなと思いました。精神的に追い込まれてから、自分自身の判断力で相談したり、証明したりする努力をするのは難しかったんだろうなと少し悲しくなりました。将来、被害を受けたり、周りに受けている人がいたら、助けたり、助けを求めたりしたいと思いました。
- 自分たちが働くのも遠くない将来なので、様々な労働条件を学ぶことができて良かったです。そういったことを知っておくだけでも過労死が減るのではないかなと思いました。これから働く上で、辛いことがあったら友達、家族に相談し、一人で抱え込まないようにしたいと思います。
- 頑張った先に本当の幸せが見えない社会の中で、努力をすることが本当に正しいのか分からなくなります。日本政府は対策をしているとは言っても、まだ企業に対して甘いイメージが高校生の私にもあります。変わることは大きな勇気が必要なことですが、努力するという人間にしかできないことが当たり前になる社会をつくるために、政府にはより厳しい決定をしていただけたらと思います。けれど、この声さえも本当に国の政治を行っている人に届いているのか不安です。

(中学校)

選択肢	件数
a. 非常に良かった	124
b. 良かった	125
c. 普通	8
d. 悪かった	0
e. 非常に悪かった	0



2. 今日の授業の感想を自由にお書きください。

- 最低賃金が毎年変わるということを初めて知りました。労働基準監督官の人が警察と同じようなこともできることにびっくりしました。
- 過労死や労働災害などは、今まで自分に関係ないものだと思っていたけれど、自分にも関わってくるということや、その対処法などを知ることができた。実際にこのような立場になった時は、今回のことを思い出して適切に対処しようと思った。
- 僕は仕事を理由に自殺をするぐらいなら、仕事を辞めれば良いと思う。それなのに自殺してしまう人が絶えないのは、それほどまでに追い詰められている、または仕事を失うと生きていけないと思込んでいることが理由だと思う。仕事は辛いなら辞めるべきであり、辞めたいことを笑う人もあってはならない。人はそれぞれ悩みを抱え生きているが、「死」を選ぶという選択は絶対に間違っているので、そういった問題の要因となるものを解決していきたいと思った。
- 過労によって多くの尊い命が失われていることが分かり、強く心に残った。クイズ形式で労働のことについて分かりやすく楽しく学ぶことができた。また、実際の遺族の方の話を聞くのと、動画で過労死に対しての思いを今一度教えてもらうことができた。今回の授業で学んだ事を忘れず働き、過労死防止啓発を多くの人に伝えていきたいと思った。
- 今回はご遺族の方にも来ていただいて直接お話を伺ったので、リアルな感情を間近で聞くことができて良かった。労災が認められない厳しさも知ることができた。「自分にはまだ関係ない」と思っていたが、バイトや仕事を始めて異変を感じた時、すぐに行動するようにしたい。
- 今日の授業で、違法な労働環境の実態や、そういった状況に巻き込まれないように何に気を付ければいいのか、多くの知識を身に付けることができた。これから社会に出ていくにつれて、こういった場面はあるかもしれないので、今日の授業はとても有意義だったと思う。
- ワークルールについて、クイズ形式で分かりやすく学ぶことができて良かったなと思いました。仕事は生きるためにあるから、仕事から自分の命を守るためにきちんとワークルールを知っておきたいなと思いました。
- 労働について知らない事ばかりだったので、自分が働く前にもっと知識を深めていきたいです。自殺をする事がないよう日頃からあった事などを親や友達に話していきたいです。相談する相手がいる環境にしていきたいです。

3.3 派遣講師用実績報告書回収結果

派遣講師より回収した実績報告書の中から、授業について記載のあった問題点、気づいた点等を一部抜粋して紹介する。

その他（問題点、気づいた点等）

（大学）

- 大教室での講演であったため、質問をしづらかったのかもしれないと思った。就活やアルバイトに関する話を織り交ぜたところ、関心が高いようであったので、身近な問題も触れながら話をするようにしたい。
- 昨年に引き続き経済学部の方との授業だったが、経営を学ぶ学生がワークルールを学ぶという事に大きな意義を感じた。また公開授業形式でもあったので、多くの方にお聞けて今後また色々な学部学科に広がると良いと思った。
- 抽象的・概念的な講義ではなく判例等の具体的事案を踏まえて講義することの方が関心を持ってもらえるという印象であった。
- 労災申請というものの情報がもっと広く日常的に得られる事。それにより、労働環境を法人も考える機会が増え、労働者に対しての適切な労働環境を与える動機になる。児童から学生の間に、この様な問題や考える時間が必修的に必要。

（短期大学）

- 学生参加型の講義にするため、講師が教室を歩き、学生に質問しながらの授業を行った。対象学生が1年生であり、まだ働くことへの具体的なイメージが湧いていない学生もいる様子であったが、正社員だけでなく、身近なアルバイトでも労働問題に直面する可能性がある」と説明し、興味を促した。

（専門学校）

- ワークショップ形式だったこともあり、時間がぎりぎりとなってしまったため、質疑応答の時間が取れなかった。次回以降に活かしたい。
- ご遺族のお話を先にすることで、学生がよく耳を傾けてくれる良い流れになったと感じた。ワークルールは、Q&A方式にしたことで、学生も参加する形がとれたのは良かった。

（高等学校）

- 弁護士と過労死遺族の話をそれぞれコンパクトにしないと50分という高校の授業の1コマに収めるのは難しいと感じた。時間を取ってインパクトのある話をする事で学生の理解が進むメリットと時間の制約をどのようにバランスさせるかは引き続き課題である。
- しっかりと事前学習をして頂いていて、事前学習が大変質の高い授業に繋がることを感じた。沢山の活発な意見、素朴な反応、こういう授業が増えたら良いなと思った。
- 高校1年生でもあり、実感はわからないようであったが、社会に出ることへの不安感を与えないよう、気をつけて話した。
- 進学率の高い高校で授業をする場合には、大学に進学したときにすぐに直面する、ブラックバイトやアカデミックハラスメントについての知識と対応を意識しておくことで、新入社員時代の被害対応力を増すことになるのではないかということで、今回の内容を追加した。

（中学校）

- ご遺族からもお話を頂き、生徒達には過労死問題についてより具体的にイメージを持ってもらうことができたと思います。
- 今回講義を受けたのは、前年に2年生だった生徒達で、ほぼ同内容の講義を2回目聴くというものでした。中学校から復習の意味も込めて2度目の要望をいただいている点、学校としても効果的に生徒達に学んでもらおうという意識が高まっていると感じました。

5. 課題

今年度事業の課題は次のとおり。

（事業周知・広報について）

- ・ 継続して申し込ただけのケースも多く、次年度以降も実施実績のある学校への周知が非常に効果的であった。
- ・ 講師の先生やご遺族の方々からの紹介は開講に直接繋がる場合が多い。次年度も紹介依頼は必須である。
- ・ 周知広報は出来る限り早い方が良い。開講までには学校側での検討に時間がかかり掛かる。

（講師の手配について）

- ・ 遠方もしくは、交通の不便な場所にある学校から申込があり、一部、講師の調整が難しかった。
- ・ 講師も多忙であり、資料が締切直前まで提供されないこともあり、印刷・発送のスケジュール管理に苦労した。校種ごとに、ベースとなる共通のレジユメは用意してもよいのではないかと思います。

（次年度の申込について）

- ・ 継続で申込のある学校からは、次年度の実施時期等についても相談を受けることがあり、スムーズに引き継げるように情報を整理したい。